

# 薬注入作業手順フローシート

区分 担当	クイックバッグ	従来の経管投与			手順	
		粉碎法	簡易懸濁法			
<b>薬剤師</b>          <b>看護師</b>	① 調剤	① 粉碎する	① 薬剤リストで確認 (疑義照会)		①	
	② 一包化する	② 調合・分包する	② そのまま使用 ※薬に応じて懸濁しやすい状態にする必要がある ② 破壊 ② 脱カプセル ② 使用不可		②	
	③ 薬を入れる	③ 容器 (薬杯等) に入れる	③ シリンジに入れる	③ ボトルに入れる	③ 薬杯に入れる	③
	④ 温湯 (55℃) を入れる	④ 水で混ぜる (懸濁しにくい)	④ 55℃の温湯を吸い取る	④ 55℃の温湯を入れる	④ 55℃の温湯を入れる	④
	⑤ 混ぜて懸濁する	⑤ 混ぜて懸濁する	⑤ 振って懸濁する	⑤ 振って懸濁する	⑤ 混ぜて懸濁する	⑤
	⑥ 10分間放置	⑥ 10分間放置	⑥ 10分間放置	⑥ 10分間放置	⑥ 10分間放置	⑥
	⑧ 確認 & 懸濁	⑦ シリンジで吸い取る	⑧ 確認する	⑦ シリンジで吸い取る	⑦ シリンジで吸い取る	⑦
	⑨ 注入 & フラッシュ	⑨ 注入 & フラッシュ (別途フラッシュ用のシリンジ要)	⑨ 注入 & フラッシュ	⑨ 注入 & フラッシュ	⑨ 注入 & フラッシュ	⑨
	⑩ 廃棄 (ゴミの量が少ない)	⑩ 洗浄して再利用 (拭取・乾燥・殺菌)	⑩ 廃棄 (ゴミの量が多い)	⑩ 廃棄 (ゴミの量が多い)	⑩ 廃棄 (ゴミの量が多い)	⑩
	<b>総括</b>  ・ 薬剤を押しつぶせるので、適応薬剤が大幅に増える。 ・ 作業性向上、時間短縮でき、コストダウンが可能。 ・ 保管場所や作業場所の省スペース化。 ・ チューブ詰まりや誤薬などのインシデントを回避できる。 ・ 気密性が高く、曝露の危険性を回避できる。  手技がシンプルで <b>“標準化しやすい”</b>	・ さまざまな問題が発生する確率が高い。 曝露 振っても崩壊しにくい チューブ詰り 薬が容器内に残る 保管スペースの確保 手間と時間がかかる ボトルは逆流する可能性がある 廃棄コストがかかる (かさばりや産廃料等)  手技が現場でバラバラで <b>“標準化しにくい”</b>				